

パパとママと いっしょに よむ こども せいしょ どうわ



ハガイ

か ひと
書いた人

ハガイ 預言者

ハガイの 意味

祝祭、祭り

核心聖句

この宮のこれから後の栄光は、先のものよりまさろう。万軍の主は仰せられる。わたしはまた、この所に平和を与える。——万軍の主の御告げ——（ハガイ 2:9）

パパとママとまず理解するハガイ書

ハガイ預言者の名前は「祝祭、祭り」という意味です。

神様のみことばどおりに、南ユダはバビロンに捕虜になって連れて行かれ、ソロモン神殿も破壊されました。

約70年が過ぎたあとで、バビロンを征服したペルシアのクロス王が、ユダの民を彼らの地に送り返すことができました。

そして、崩れた神殿をもう一度建てるようにとまて言いました。

しかし、サマリヤの人々が妨害して、民は荒れ果てた地を耕して、神殿の工事が長い間、中断するようになりました。

このとき、神様のみことばがハガイ預言者に臨みました。

ハガイ預言者は、新しい神殿に臨んだ神様の栄光について語り、神殿建築をするように、はげしました。

また、みことばに従順にする者に与えられる祝福とゼルバベルを通して未来に臨む救いの祝福まで語りました。

ハガイ書の核心の単語は「神殿」です。この神殿は、神様が私たちとともにおられるために、たえず語られたキリストの契約の意味です。

イエス・キリストを受け入れれば、神様が私たちを神殿として、永遠に離れることがないという事実をレムナントに伝えてあげましょう！

ハガイよげんしゃが しんでんの ぼしょを とおりすぎた
とき ひとりの こどもが ないていました。

「なぜ ないているのだい」

「がんばって つくった おしろを あのこが
くずしたの！」

「もういちど つくったら いいだろう」

「じかんが たりないよ。 ひが しずんでしまうよ。

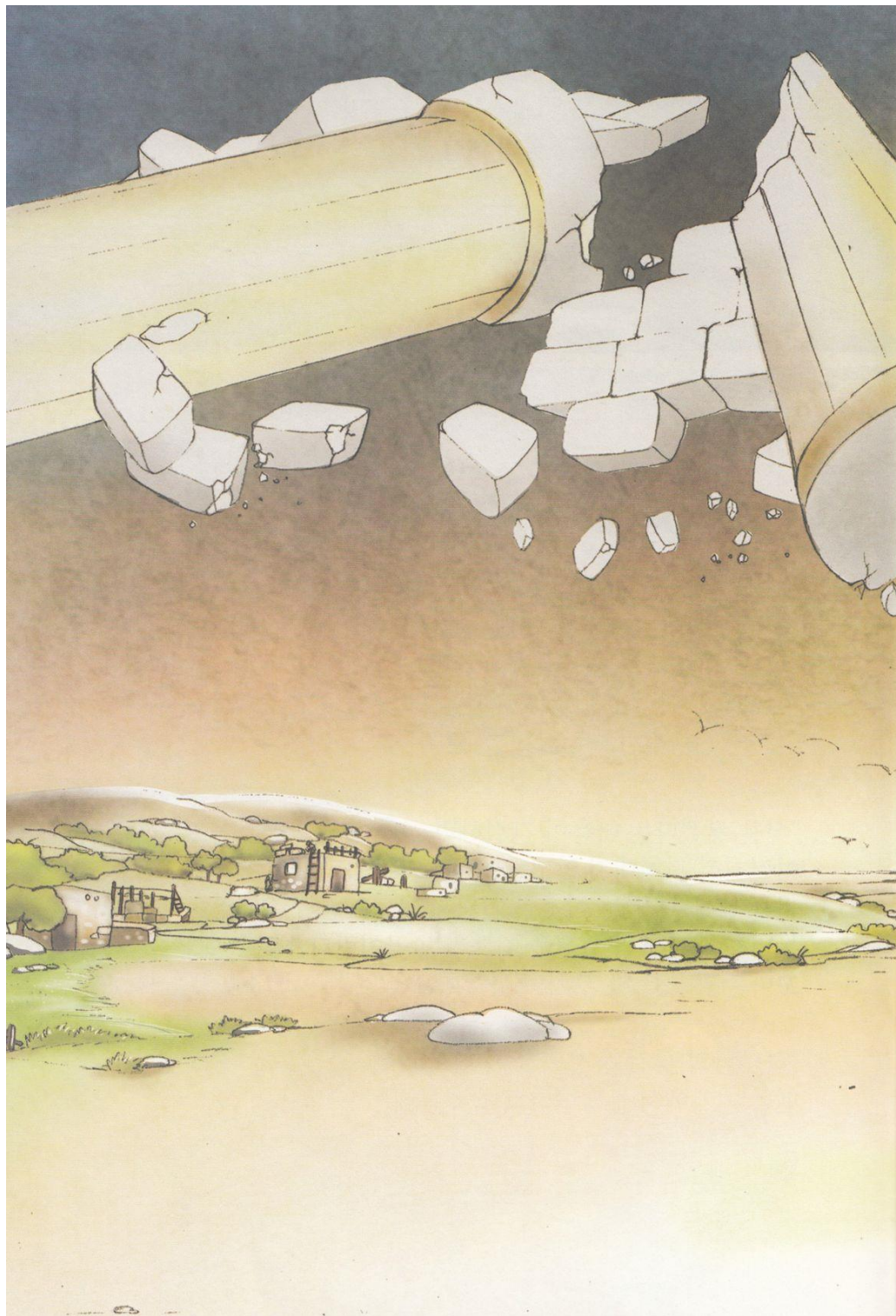
ごはんも たべないと いけないし…」



ハガイよげんしゃは こうじが とまったまま
ながいじかんが すぎた しんでんの ぼしょを
みまわしました。

「おしろを たてるという おもいが
つよくあれば あれこれ いいわけせずに
おしろを たてることが できるよ。
いま わたしが たっている ここは どのなか。
くずれた かみさまの しんでんを たてようと していた
ところだ」
こどもが なくのを やめて たずねました。

「かみさまの しんでんを たてると いったの？
まいにち ここで だろあそびを していたのに…」



ハガイよげんしゃは こしを おろして はなしはじめました。

「きみたちの おじいさんの じだいの ときのことだよ。

バビロンが とても おおきな ぐんたいを
つれて やってきた。

かれらは かみさまに れいはいを さげて けいやくの はこを
おく ソロモンしんでんを かんぜんに こわしてしまった。
そして わたしたちは ほりよになって つれていかれたのだ。
すべて かみさまが みことばで いわれたとおりに
おきたのだよ」

「わたしの おじいさんも そのはなしを したことが あったよ！」

「わたしの おとうさんが うまれる まえだったんだ」

いつのまにか ハガイよげんしゃの そばに こどもたちが
ひとり ふたり あつまってきました。





「バビロンに いった イスラエルの たみは だんだん かみさまを
わすれてしまった。 ところが ペルシャという おおきな くにが
バビロンを おさめるように なった。

ペルシャの クロスおうは わたしたちに めいれいした。
もういちど ユダの ちに かえっていって かみさまの しんでんを
たてなさいと。 これは かみさまの みことば どおりに
おきた ことなのだ」



「それなのに なぜ しんでんを たてなかったの」

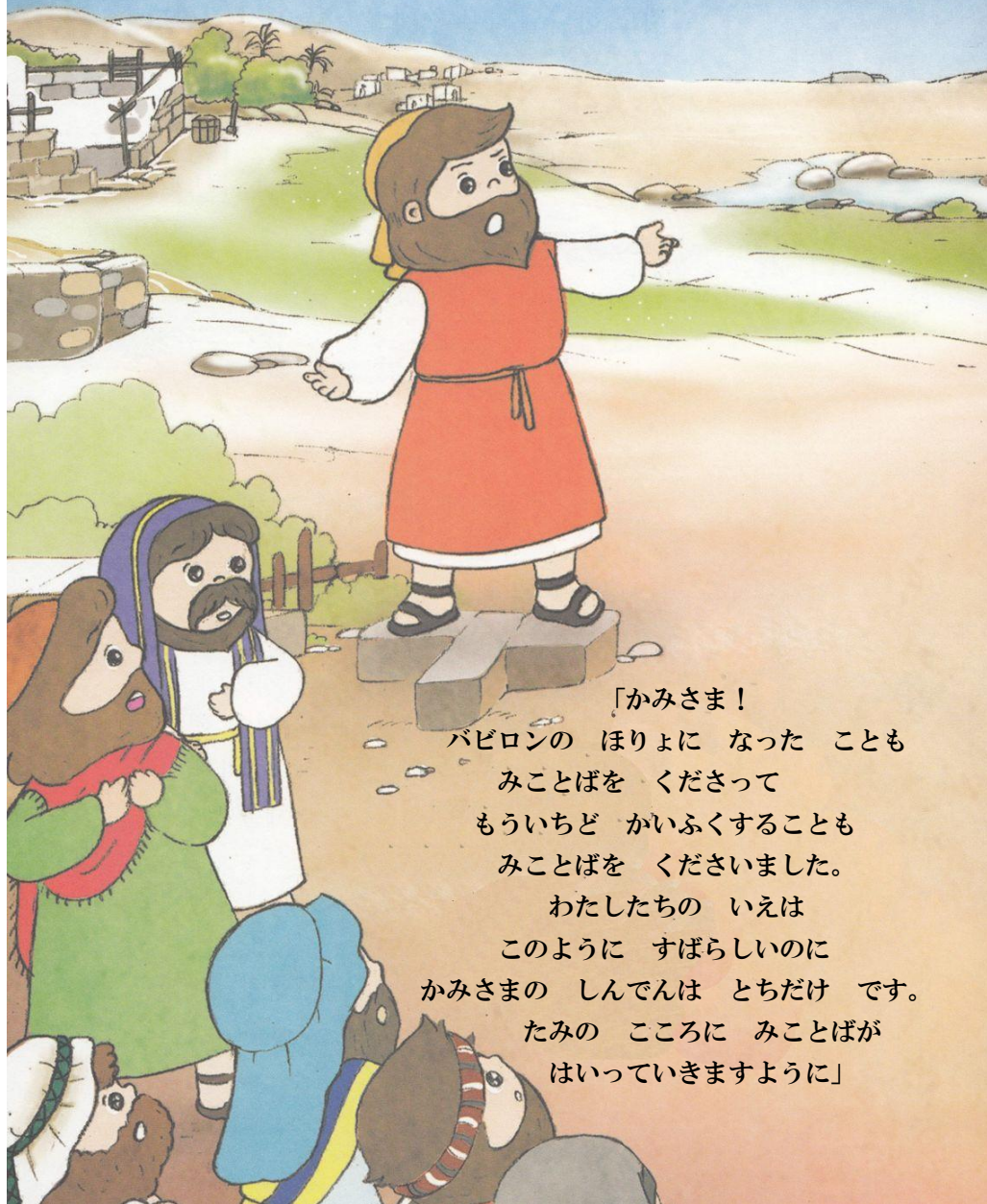
「はじめには かみさまの みことばに ききしたがって しんでんを
たてていたのだけれど サマリヤの ひとたちが じゃましたのだ。
そして たべるものが なくて のうぎょうを しなければならなくて
さむいから いえも たてないと いけなかった。
ひとびとは だんだん いそがしくなったのだ。
それで しんでんの こうじを やめてしまった」

こどもたちは こまったように はなしました。

「しんでんを もういちど たてる ところが だんだん
なくなったんだね。おとなのひとは もういちど
かみさまの みことばに ききしたがうのかな」



ハガイ よげんしゃは しんでんの ばしょを みて
まいにち かみさまに いのりました。



「かみさま！
バビロンの ほりよに なった ことも
みことばを くださって
もういちど かいふくすることも
みことばを くださいました。
わたしたちの いえは
このように すばらしいのに
かみさまの しんでんは とちだけ です。
たみの ところに みことばが
はいつていきますように」

あるひ かみさまの みことばが ハガイよげんしゃに のぞみました。
ハガイよげんしゃは たみに かみさまの みことばを つたえました。



「かみさまの しんでんが
くさって いっているのに
わたしたちが くらす いえは
よく たてて かざっている。
わたしたちが たねを たくさん まいても
みは すくなかったのでは ないか。
どんなに たべても
おなかが いっぱいには ならなかった。
かみさまが そのように されたのだ。
しかし わたしたちが みことばに
ききしたがって しんでんを たてれば
かみさまが ともに おられる」

ハガイよげんしゃが みことばを つたえたら
イスラエルの たみは もういちど
しんでんを たてると いいました。

「うわー！ パパ ハガイよげんしゃが いったね。

かみさまが ともに おられるよ。

ぼくは それを しらないで ここは あそびばだと おもっていたんだ」

こどもは しんでんを たてる パパの そばに

ぴったりと くっついて いいました。

「でも わたしたちが れいはいを ささげるのに しんでんは

とても ちいさいのではないか。

ソロモンしんでんは ほんとうに すばらしかったのに…」

ひとびとは ソロモンしんでんを なつかしく おもって

ためいきを つきました。



かみさまは ふたたび みことばを くださいました。

ハガイよげんしゃは もういちど イスラエルの たみに

かみさまの みことばを つたえました。



「いま たてている しんでんは みすぼらしく みえるだろう。
かみさまは わたしたちの こころを つよくしなさいと いわれる。

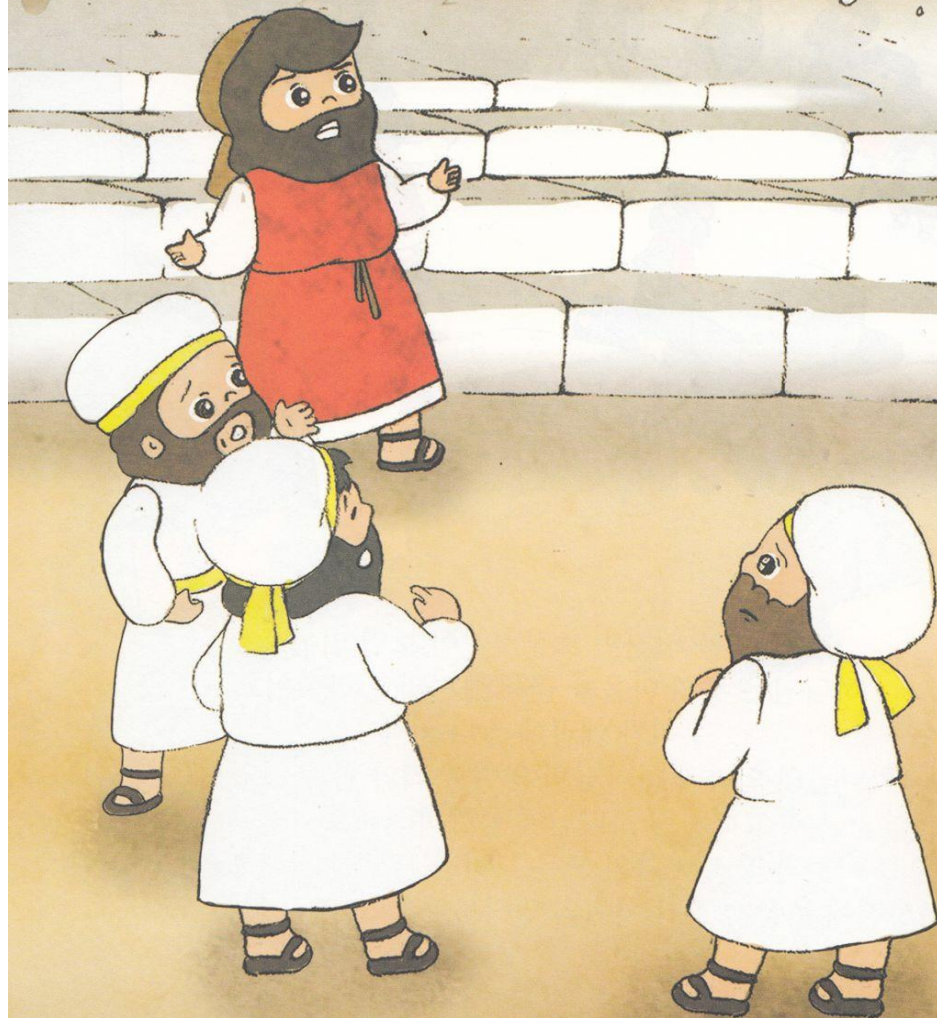
わたしたちが エジプトから でた とき
かみさまの けいやくと かみさまの れいが
わたしたちと ともに なかったらうか。

そのときのように かみさまが ともに おられる。

てんと ちと うみと すべての くにごにを ゆりうごかされる。
この しんでんに あたえられる えいこうは いぜんの えいこうより
もっと おおきいと いわれる」

かみさまは さんかいめに みことばを くださいました。
ハガイよげんしゃは さいしたちを よびあつめました。
「かみさまの しんでんは きよいけれど
わたしたちは どうなのか」

ひとりの さいしが こたえました。
「つみを おかして きよくないです」



ハガイは つづけて いいました。

「それゆえ わたしたちが そだてた こくもつは どうなのか。
かれてしまって たべることが できない。
ぼうふう かび ひょうの わざわいが つづけて くる。
それなのに かみさまに わたしたちの こころを たちかえらせなかった。
しかし かみさまは しんでんを たてて ききしたがう そのひ から
すべてのことを かいふくすると いわれる」



かみさまが よんかいめに
みことばを くださいました。

ハガイよげんしゃは ゼルバベルそうとくに
みことばを つたえました。

「かみさまが てんと ちを ゆりうごかされる。
いろいろな くにの ちからある ちに いる
ひとたちを ひっくりかえして こわすと いわれる。

そのひに かみさまが
ゼルバベル、あなたを たてて
あなたを えらばれた ことを わすれては ならない。
ゆびわに きざんだと いわれた」

ゼルバベルそうとくは
かみさまの やくそくを しんじました。
やくそくを しんじる ものは
かみさまの えいこうを みると
かくしんも するように なります。



ゼルバベルは ほかの ひとたちより さきに
みことばに ききしたがって いのりを ささげました。



かみさまの みことばを うけた たみは しんでんを
もういちど たてはじめました。
しんでんの ぼしょに でてきた ハガイよげんしゃを
みた こどもが よろびました。

「よげんしゃさん！ おとなたちが しんでんを もういちど
たてるように なって しあわせだよ。
でも なぜ かみさまは このように
しんでんを たてることを
よろこばれるのかな」



「しんでんで かみさまに れいはいを ささげるとき
かみさまが わたしたちと ともに おられるのだよ」

こどもは めを おおきく ひらけました。

「ほんとう？」

それなら ぼくが いえに いる ときも あるいている ときも
かみさまが いっしょに おられたら いいのにな」

「だから しんでんの しゅじんこうである キリストを おくって
くださるのだよ。

そのときは かみさまは わたしたちを しんでんに して くださって
えいえんに ともに おられるよ。
そのひが まちどおいしいだろう？」

